

ケロちゃん通信

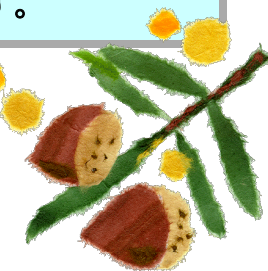
2019年 10月 第52号



- ☆ 山のほうから紅葉の便りが聞かれる季節になりました。台風がきたり、暑い日もあったり、不安定な気候が続いています。RSウイルス、百日咳などの咳を伴う感染症の流行が続いています。季節の変わり目で喘息発作の患者さんも増えています。関東のほうではすでにインフルエンザも流行しているみたいです。体調にはお気を付けください。
- ☆ インフルエンザワクチンの予約を受付けています。やはり土曜午後や平日夕方の希望者が多く、すでに予約が一杯の日もあります。消費税増税に伴い価格も若干の変化がありますが、できるだけ料金は上げずに多くの方に接種していただければと思います。特に子育て中のお母さんは、自分が予防接種に行くことも大変だと思います。お子さんの予防接種の時に一緒に接種されることをおすすめします。
- ☆ 例年、10月からインフルエンザワクチン接種が始まると、待合がいつもより混み合い、直接来院の場合、待ち時間が長くなってしまいう傾向があります。待ち時間を短くするために、ご予約の上来院して下さるようご協力よろしくお願ひします。

10月22日(火)は即位礼正殿の儀のため、カレンダー通りに休診とさせていただきます。

10月の診療予定
本間医師 (4日午前・午後 18日午前)



ながおか医療生協 あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1
電話番号 0258-36-5810
<http://www.nagaoka-iryousaikyou.jp/>

診療案内

一般診療の受付開始は午前8時30分、午後15時30分からです。

☆一般診療

直接来院の場合は、診療時間内に受診してください。
予約希望の場合は、前日0:00からスマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください。
付き添いのお母さん等が体調不良の時も、お気軽にご相談ください。
緊急の場合や、特別な相談がある場合には、まずお電話ください。

☆**予防接種、乳児健診**：スマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください(2ヶ月後の予約までできます)。今まで通り、窓口または電話でご予約もできます。

☆専門外来

①**発達外来(第1金・第3火13:30~15:30、その他の火・金13:00予約制)**
小児神経専門医による診療を行っています。言葉が遅い、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくを起こしやすい等の発達障害をご心配されている方、ひきつけ、チック、夜尿症などの発達や神経に関する心配がある方は、お気軽にご相談ください。
②**アレルギー外来(第1金 9:30~11:20 13:40~15:20、第3金 9:30~11:20 予約制)**
アレルギー専門医による診療を行っています。食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎、花粉症等で心配がある方は、ご相談ください。

☆発達外来、アレルギー外来受診希望の場合には、電話で予約をお願いいたします。(ネット予約はできません)

☆生協こどもクリニックとも協力して診察を行っています。病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。

抗ヒスタミン薬の適正使用

- 抗ヒスタミン薬は、アレルギーの時に使用される薬です。アレグラ、アレジオン、アレロック、ジルテック、ザイザルなど数多くの薬が使用されています。アレルギーの患者さんには、症状の緩和や予防に役立ちます。
- 一方、鼻水が出ると、アレルギーではなくかぜの症状であっても抗ヒスタミン薬が処方される場合があります。抗ヒスタミン薬は鼻かぜの薬ではなくアレルギーの薬です。かぜには不要なお薬です。
- ヒスタミンという物質は、末梢ではアレルギー反応を起こす作用があり、それを抑えるのが抗ヒスタミン薬の役割です。アレルギーは抑えますが、そのため分泌物を減らし、膿の排泄を遅らせるため、副鼻腔炎や中耳炎に対してはマイナスの作用もあります。
- ヒスタミンは脳にも存在し、けいれんを抑制したり、こどもの脳の発達にも重要な役割を果たしています。また眠くなったり、注意力が減退するのも脳への作用のためです。そのため、抗ヒスタミン薬が脳のヒスタミンの作用を抑えると、けいれんが止まりにくくなったり脳の発達そのものにも影響を及ぼすと考えられています。
- こどもに安全な抗ヒスタミン薬は、アレルギー作用はあるが、脳への作用が少ない薬です。脳への作用を少なくした抗ヒスタミン薬は第2世代（非鎮静性）とよばれ、現在使われている抗ヒスタミン薬の多くは第2世代です。しかしまだ古くからある第1世代も使われている場合があります。

- 抗ヒスタミン薬は、薬ごとに使用できる年齢が異なります。アレグラ、ザイザルは6カ月から、ニボラジンは1歳から、アレロック、ジルテックは2歳から、アレジオンは3歳からという制約がありますのでご注意ください。
- 第2世代抗ヒスタミン剤も大きく2種類に分けられます。三環系（アレジオン、アレロック、クラリチン、ザジデン、アゼブチン、ニボラジン等）と、ピペラジン/ピペリジン系（ザイザル、アレグラ、ジルテック、タリオン、エバステル等）です。花粉症の予防などにはピペラジン系のほうが有効とされていますが、個人差もあり使い方は外来でご相談ください。
- 抗ヒスタミン薬を使用する場合、かぜの症状なのかアレルギーの症状なのか、小児でも安全な薬なのかを相談の上、使用しましょう。

